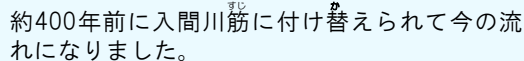
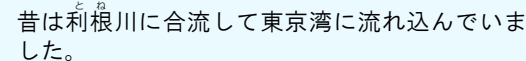


～徳川幕府の国土計画～

荒川は昔から今の流れだったわけではありません。

江戸時代初期に利根川から分離する川の付け替えが行われました。



荒川の瀬替えとは

現在の荒川の流路は、江戸時代初期に行われた土木事業によってその原型が形づくられました。江戸時代以前の荒川は、現在の元荒川筋を流れ、越谷付近で当時の利根川（古利根川）に合流していました。

荒川はその名の通り「荒ぶる川」であり、扇状地末端の熊谷付近より下流で、しばしば流路を変えていました。関東平野の開発は氾濫・乱流を繰り返す川を治め、いかに川の水を利用するかにかかっていた。

江戸時代の1629（寛永6）年に、伊奈忠治が荒川を利根川から分離する付け替え工事を始めました。久下村地先（熊谷市）において元荒川の河道を締め切り、堤防を築くとともに新川を開削し、荒川の本流を当時入間川の支川であった和田吉野川の流路と合わせ、隅田川を経て東京湾に注ぐ流路に変えました。

この河川改修は後に「荒川の西遷」と呼ばれ、埼玉県東部を洪水から守り新田開発を促進すること、木材を運ぶ舟運の開発、中山道の交通確保や江戸の洪水防御などを目的としていたと言われています。

▶ 進^{しんてん}展した新田開発

荒^{あら}川と利根^{とね}川の分離^{ぶんり}により、元荒^{もとあら}川筋^{すじ}や綾瀬^{あやせ}川筋^{すじ}では、旧河道^{きゅうかどう}からの灌漑^{かんがい}用水^{すい}の引水^{ひき}や残^{ちん}された池沼^{ちしやう}を溜井^{ためい}に造成^{さうぞう}するなどして、とくに下流域^{げりゆういき}での新田開発^{しんてん}を進めた結果^{こく}、多くの新田村^{しんてん}が生まれました。この頃^{ころ}開発された足立郡^{あしたけ}と埼玉郡^{さいたま}の新田村^{しんてん}は約109カ村にも及びました。

また、1629（寛永^{かんえい}6）年荒^{あら}川の瀬替^{せが}えと同時に荒^{あら}川水系^{すい}中最も広く、しかも水量豊富^{ちしやう}な池沼^{みぬま}であった見沼^{けんしやう}に溜井^{ためい}を造成^{さうぞう}し、見沼^{けんしやう}周辺^{しん}で最も狭い木曾呂^{きそろ}（川口市）から附島^{つきしま}（浦和市大門木）にいたる約8町（約870m）の間に長堤^{ちやうてい}（八丁堤^{はちちやうづみ}）を築き、上流^{じやうりゆう}や周辺地域^{しん}からの流水^{りゆうすい}の貯留^{ちりう}を図りました。

▶ 陸上交通路^{せが}を守るためでもあった瀬替^{せが}え

1629（寛永^{かんえい}6）年の荒^{あら}川の瀬替^{せが}えは、中山道整備^{なかせんどう}の一環^{いちわん}として行われたとも言われています。陸上交通路^{さんきん}は参勤交代^{さんきん}制度^{せいど}の確立^{くわつりつ}等により著^{いちじる}しく重要性^{じゆうじき}を増していく中、荒^{あら}川の瀬替^{せが}えは、江戸^{えど}を日本政治^{にっぽんせいじ}の中心^{しん}とするため、徳川幕府^{とくせん}の国土経営^{こくどけい}の一環^{いちわん}として行われたとも言えます。

中山道^{なかせんどう}の整備・防衛^{くげ}にとって久下^{くげ}周辺^{しん}が重要なポイントであり、そのためこの地点^{ちやうすい}の洪水対策^{こうすい}が必要^{きやう}欠くべからざるものだったと言えます。



荒^{あら}川の瀬替^{せが}えと中山道^{なかせんどう}等の位置関係

コ ラ ム びぜんづつみ 備前堤

荒^{あら}川の瀬替^{せが}えにおいては、まず最初^{あやせ}に綾瀬^し川が締め切られています。当時は綾瀬^{あやせ}川が荒^{あら}川の幹川^{かんせん}だったようですが、「備前堤^{びぜんづつみ}」という堤防^{ていぼう}で閉め切れ、荒^{あら}川（今の元荒^{もとあら}川）と切り離されました。「備前堤^{びぜんづつみ}」という名は、江戸時代^{えど}に関東郡代^{かんとうぐんしろ}として、幕府^{ばくふ}の領地^{りやうち}にあった伊奈備前守忠次^{いなびぜんしゅしんじ}に由来^{よき}します。幅4メートル、高さ約3メートル、長さ約600メートルほどの堤^{つみ}と言われています。

この堤^{つみ}の完成^{かんせい}によって、下流^{げりゆう}の伊奈^{いな}、蓮田^{はすだ}方面^{はつ}の村^{むら}は洪水^{こうすい}の害^{がい}をまぬがれるようになりましたが、現在の桶川市域^{おけがわし}を含む上流^{じやうりゆう}の村^{むら}は大雨^{たいふ}の降^ふるたびに田^{いり}が冠水^{かんすい}し、その被害^{ひがい}は大きく近年^{きんねん}にまで及^{およ}んだといひます。

出水^{すいすい}のたびに、上流^{じやうりゆう}と下流^{げりゆう}の村^{むら}々の間で備前堤^{びぜんづつみ}をめぐる争^いいがしばしばあったと伝えられ、現在^{いま}も残^{のこ}る「御定杭^{おきだめくい}」はこの争^いいを調停^{てうてい}するために、土俵^{どひやう}を積^{たか}む高さ^{たかさ}を制限^{せいげん}する目安^{いばん}とされたものです。

アクセス

もとあら 元荒^{もとあら}川起点^{しじたん}の碑^い

瀬替^{せが}えによって切り離されたそれまでの荒^{あら}川は、湧水^{ゆうすい}（現在は地下水^{くわんすい}）を水源^{すいげん}とした元荒^{もとあら}川となり、起点^{しじたん}の碑^いが熊谷市佐谷田^{くまがやし}にあります。

交通^{こうつう}：JR高崎線^{くまがや} 熊谷駅^{くまがや}から徒歩^{ふと}で約17分

住所^{しゆしゆ}：埼玉県熊谷市佐谷田^{くまがやし}



元荒^{もとあら}川起点^{しじたん}の碑^い